

私儀過日江戸府判事

兼任被

仰付以處病氣付出立

延引之儀奉願上則

御聞届被成下置難有

仕合奉存以旦又難果敢

取病症付座以河當職

御免之儀願書進達

仕置以儀付座以今以

御許容之沙汰茂不



仕置小像さざなみ座小くら今以

御許容ごゆる之の沙汰さた茂不

奉蒙ほうもう日夜心痛にちやうしん俟方今

關東之儀くわんとのぎ尚兵馬之地しやうへいばのち

其座小然そのくらしかん右邊みぎへ之沙用向

一旦被

仰出おほしだ處病氣ぢやうき之の名申

命いのち應おとこ一ひと並なら小こ順したが深奉

恐入武門おそいりぶもん之義のぎ我われああしし寸刻

茂不安情もうふあんじやう實じつ座小くら災重



恐入武門に義ありし時刻

我少安情實は居し矢重

心願意速

御聞届奉願上より外

是は度小然毎再應思慮

仕より即今よりは機會に當り

自己之退職而已を只為

強願仕儀多しを思入

は像より甘存し身を退き

後進より若くは年より和漢



は像より身存身を退きしは

後進し者なるやと和漢

其例不少儀は庶少間私より

中より如何に儀とせば

存し得る私を去り公就し

心得る一事建白待私舊

同藩井田五元が者は庶少

人戈より福し者なるは庶少

得共頗膽力もは庶少間

事新或る刑法より向え



得共頗膽力もは座少間

車筋或は刑法より向え

事登用茂は成下果山は私儀

を事用ひ被下ゆをり事用

辨茂一仕我を奉存少のね

成も右五流を如何に

は場所はありは試事少可

私儀を何と一日當職

被

免下果山振偏事恐願小



免下罪而振偏幸恐願小

病氣全快之上也決

朝命遠背亦心底

毛頭各在左右情實

詳察之下罪重之

執成之儀奉頓存上

五月廿日 小原二兵衛

參與

市一列中換